

## IV 介護の状況

### 1 要介護者等のいる世帯の状況

介護保険法の要支援又は要介護と認定された者（熊本県を除く。）のうち、在宅の者（以下「要介護者等」という。）のいる世帯の世帯構造をみると、「核家族世帯」が37.9%で最も多く、次いで「単独世帯」が28.9%、「その他の世帯」が18.3%となっている。

年次推移をみると、「単独世帯」と「核家族世帯」の割合は上昇傾向であり、「三世帯世帯」の割合が低下している。（表18）

表18 要介護者等のいる世帯の世帯構造の構成割合の年次推移

（単位：％）

年次	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	(再掲) 高齢者世帯
平成13年	100.0	15.7	29.3	18.3	32.5	22.4	35.3
16	100.0	20.2	30.4	19.5	29.4	20.0	40.4
19	100.0	24.0	32.7	20.2	23.2	20.1	45.7
22	100.0	26.1	31.4	19.3	22.5	20.1	47.0
25	100.0	27.4	35.4	21.5	18.4	18.7	50.9
28	100.0	28.9	37.9	21.9	14.9	18.3	54.5

注：平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

要介護度の状況を世帯構造別にみると、「単独世帯」では要介護度の低い者のいる世帯の割合が高く、「核家族世帯」「三世帯世帯」では要介護度の高い者のいる世帯の割合が高くなっている（表19）。

表19 要介護者等のいる世帯の世帯構造別にみた要介護度の構成割合

（単位：％）

平成28年

要介護度	総数	単独世帯	核家族世帯	(再掲) 夫婦のみの 世帯	三世帯世帯	その他の 世帯	(再掲) 高齢者世帯
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
要支援者のいる世帯	30.0	42.0	28.3	27.7	23.0	20.5	33.9
要支援1	13.6	20.4	12.3	11.1	8.9	9.5	15.4
要支援2	16.4	21.6	15.9	16.6	14.1	11.0	18.6
要介護者のいる世帯	66.8	54.1	68.0	69.1	75.9	76.9	62.6
要介護1	18.9	18.4	17.8	18.7	20.8	20.6	18.9
要介護2	20.5	18.3	20.2	20.6	22.6	23.0	19.5
要介護3	12.1	9.1	12.1	12.7	15.3	14.0	11.3
要介護4	8.8	4.5	9.9	9.5	10.8	11.9	7.7
要介護5	6.4	3.8	8.0	7.6	6.4	7.5	5.2

注：1）「総数」には、要介護度不詳を含む。

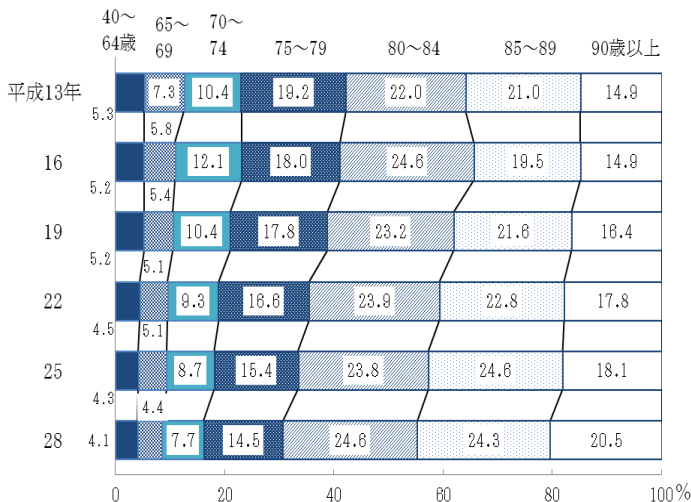
2）世帯に複数の要介護者等がいる場合は、要介護の程度が高い者のいる世帯に計上した。

3）熊本県を除いたものである。

## 2 要介護者等の状況

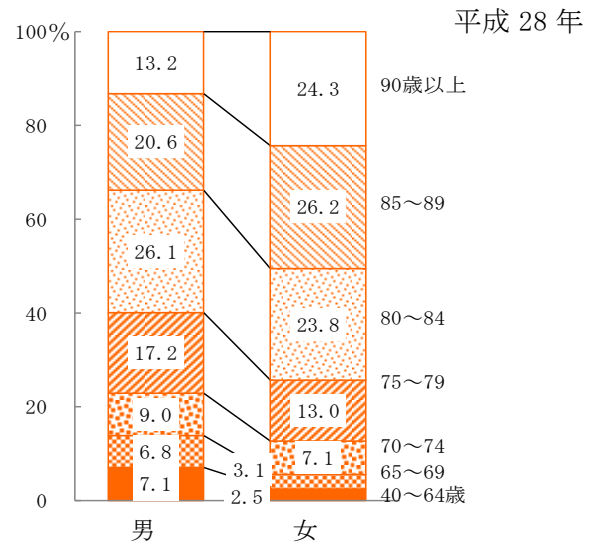
要介護者等（熊本県を除く。）の年齢を年次推移で見ると、年齢が高い階級が占める割合が上昇している。平成28年の要介護者等の年齢を性別にみると、男は「80～84歳」の26.1%、女は「85～89歳」の26.2%が最も多くなっている。（図33、34）

図33 要介護者等の年齢階級別構成割合の年次推移



注：平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

図34 性別にみた要介護者等の年齢階級別構成割合



注：熊本県を除いたものである。

介護が必要となった主な原因を要介護度別にみると、要支援者では「関節疾患」が17.2%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が16.2%となっている。要介護者では「認知症」が24.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が18.4%となっている。（表20）

表20 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

（単位：%）

平成28年

要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	18.0	脳血管疾患（脳卒中）	16.6	高齢による衰弱	13.3
要支援者	関節疾患	17.2	高齢による衰弱	16.2	骨折・転倒	15.2
要支援1	関節疾患	20.0	高齢による衰弱	18.4	脳血管疾患（脳卒中）	11.5
要支援2	骨折・転倒	18.4	関節疾患	14.7	脳血管疾患（脳卒中）	14.6
要介護者	認知症	24.8	脳血管疾患（脳卒中）	18.4	高齢による衰弱	12.1
要介護1	認知症	24.8	高齢による衰弱	13.6	脳血管疾患（脳卒中）	11.9
要介護2	認知症	22.8	脳血管疾患（脳卒中）	17.9	高齢による衰弱	13.3
要介護3	認知症	30.3	脳血管疾患（脳卒中）	19.8	高齢による衰弱	12.8
要介護4	認知症	25.4	脳血管疾患（脳卒中）	23.1	骨折・転倒	12.0
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	30.8	認知症	20.4	骨折・転倒	10.2

注：熊本県を除いたものである。

### 3 主な介護者の状況

主な介護者（熊本県を除く。）をみると、要介護者等と「同居」が58.7%で最も多く、次いで「事業者」が13.0%となっている。

「同居」の主な介護者の要介護者等との続柄をみると、「配偶者」が25.2%で最も多く、次いで「子」が21.8%、「子の配偶者」が9.7%となっている。（図35）

また、「同居」の主な介護者を性別にみると、男34.0%、女66.0%で女が多く、これを年齢階級別にみると、男女とも「60～69歳」が28.5%、33.1%と最も多くなっている（図36）。

図35 要介護者等との続柄別主な介護者の構成割合

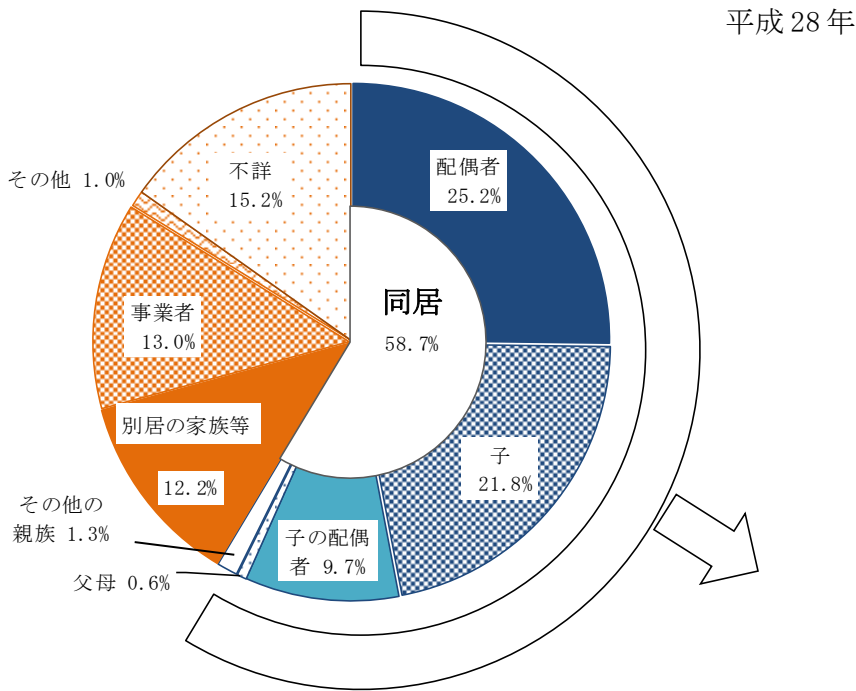
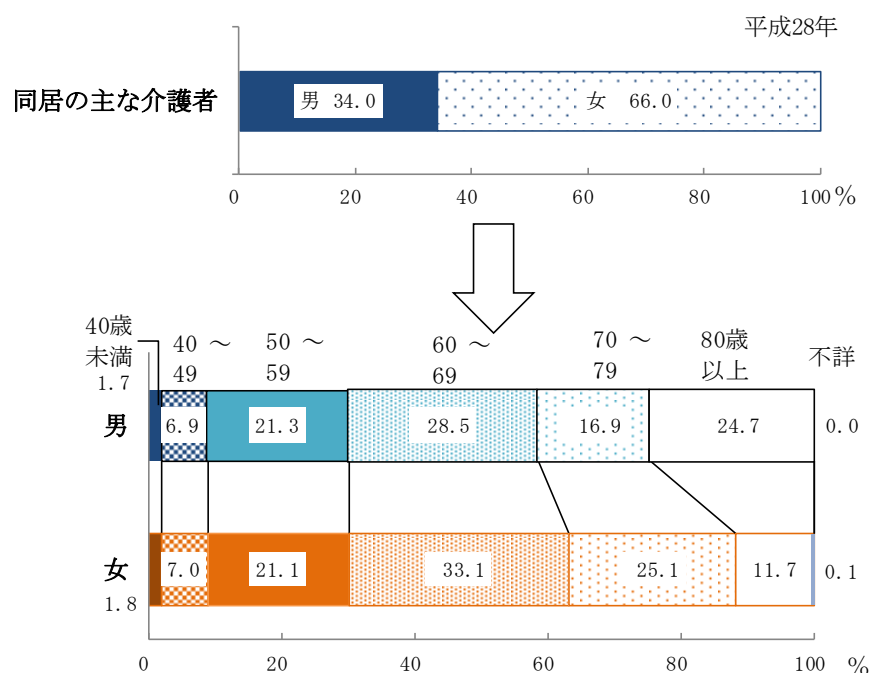


図36 同居の主な介護者の性・年齢階級別構成割合

注：熊本県を除いたものである。



注：熊本県を除いたものである。

同居の主な介護者と要介護者等の組合せを年齢階級別にみると、「70～79歳」の要介護者等では、「70～79歳」の者が介護している割合が48.4%、「80～89歳」の要介護者等では、「50～59歳」の者が介護している割合が32.9%で最も多くなっている（表21）。

年次推移をみると、60歳以上同士、65歳以上同士、75歳以上同士の組合せにおいて、いずれも上昇傾向となっている（図37）。

表21 要介護者等の年齢階級別にみた同居の主な介護者の性・年齢階級構成割合

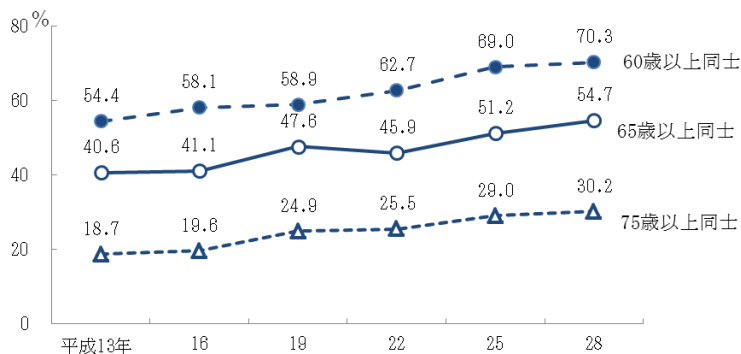
(単位：%) 平成28年

同居の主な介護者の性・年齢階級	要介護者等								
	総数	40～64歳	65～69	70～79	80～89	90歳以上	(再掲)60歳以上	(再掲)65歳以上	(再掲)75歳以上
総数	[100.0] 100.0	[4.4] 100.0	[4.6] 100.0	[22.6] 100.0	[47.1] 100.0	[21.4] 100.0	[97.5] 100.0	[95.6] 100.0	[83.1] 100.0
40歳未満	1.8	8.3	6.6	1.6	0.9	1.3	1.6	1.5	1.1
40～49歳	7.0	3.8	14.5	15.5	4.9	1.5	7.0	7.1	5.7
50～59	21.2	31.4	2.0	8.6	32.9	10.8	21.0	20.7	23.3
60～69	31.5	35.6	62.0	13.1	22.6	63.2	31.8	31.3	30.1
70～79	22.3	11.3	14.7	48.4	15.2	14.4	22.4	22.8	21.0
80歳以上	16.1	9.6	0.2	12.4	23.4	8.8	16.1	16.4	18.6
(再掲)60歳以上	70.0	56.6	76.9	73.9	61.2	86.4	70.3	70.6	69.8
(再掲)65歳以上	53.9	35.9	54.0	72.5	43.8	60.1	54.2	54.7	53.1
(再掲)75歳以上	27.3	14.1	0.8	34.6	34.8	11.3	27.3	27.9	30.2
男	34.0	36.6	37.1	39.9	32.8	29.0	33.9	33.8	32.8
40歳未満	0.6	4.3	1.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.4	0.4
40～49歳	2.3	1.2	6.1	6.3	1.2	0.2	2.3	2.4	1.8
50～59	7.3	7.2	-	3.6	11.3	3.8	7.1	7.3	8.1
60～69	9.7	20.7	18.3	1.8	7.2	19.3	9.7	9.2	9.2
70～79	5.7	0.5	11.3	16.9	1.3	3.6	5.9	6.0	3.7
80歳以上	8.4	2.8	-	11.1	11.5	1.7	8.5	8.6	9.7
(再掲)60歳以上	23.8	24.0	29.6	29.8	20.0	24.6	24.0	23.8	22.6
(再掲)65歳以上	19.1	14.9	25.2	29.5	14.8	17.2	19.4	19.3	17.7
(再掲)75歳以上	11.4	3.3	0.6	21.6	12.4	2.4	11.6	11.8	12.0
女	66.0	63.4	62.9	60.1	67.2	71.0	66.1	66.2	67.2
40歳未満	1.2	4.0	5.1	1.3	0.6	1.0	1.1	1.0	0.7
40～49歳	4.6	2.6	8.5	9.3	3.7	1.4	4.7	4.7	3.9
50～59	14.0	24.2	2.0	5.0	21.7	6.9	13.8	13.5	15.2
60～69	21.8	14.9	43.7	11.3	15.4	44.0	22.2	22.2	20.9
70～79	16.6	10.9	3.3	31.5	13.9	10.7	16.5	16.8	17.4
80歳以上	7.8	6.8	0.2	1.3	12.0	7.1	7.6	7.8	8.9
(再掲)60歳以上	46.2	32.6	47.2	44.1	41.2	61.8	46.3	46.8	47.2
(再掲)65歳以上	34.8	21.0	28.9	43.0	29.0	43.0	34.8	35.4	35.4
(再掲)75歳以上	15.9	10.8	0.2	13.0	22.4	8.9	15.8	16.1	18.2

注：1) 「総数」には、主な介護者の年齢不詳を含む。

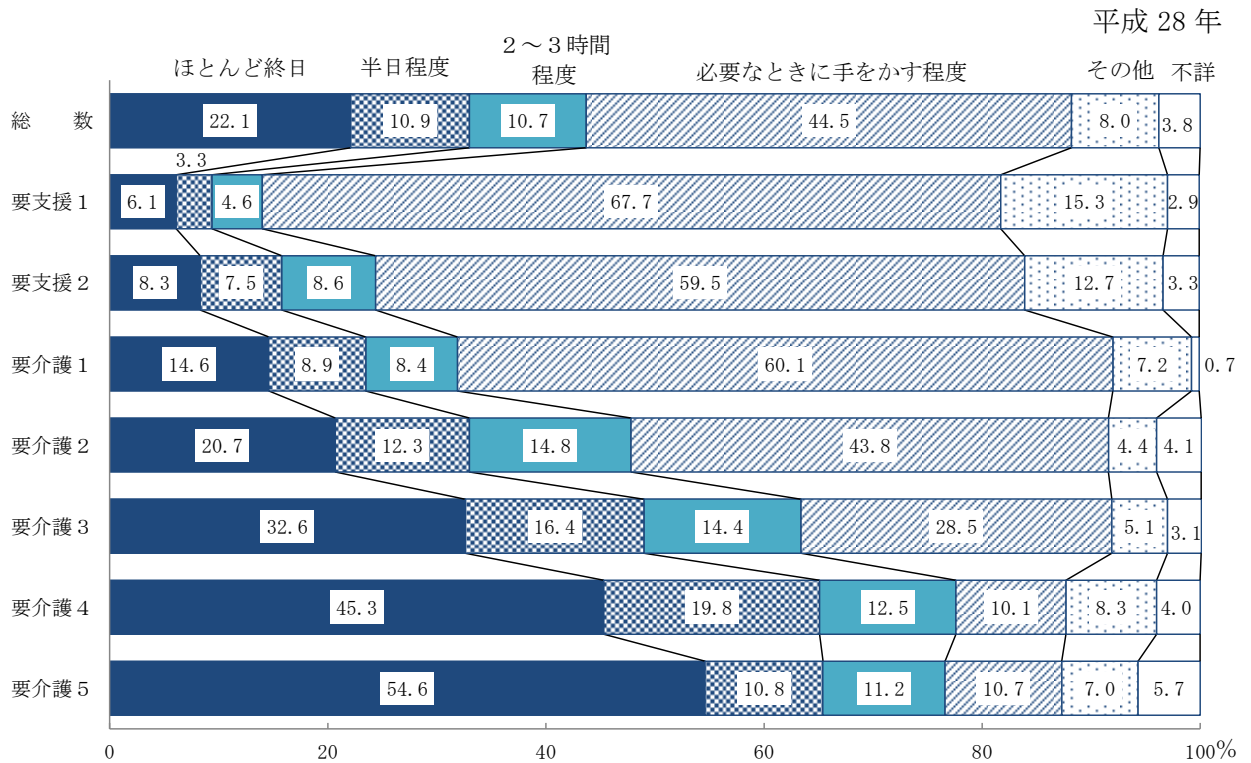
2) 熊本県を除いたものである。

図37 要介護者等と同居の主な介護者の年齢組合せ別の割合の年次推移



同居の主な介護者の介護時間を要介護度別にみると、「要支援1」から「要介護2」までは「必要ときに手をかす程度」が多くなっているが、「要介護3」以上では「ほとんど終日」が最も多くなっている（図38）。

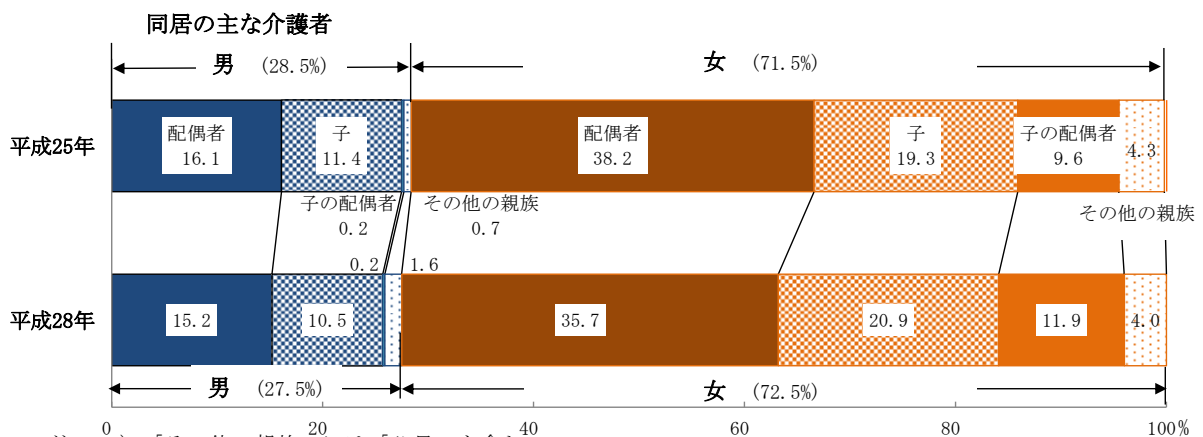
図38 要介護度別にみた同居の主な介護者の介護時間の構成割合



注：1）「総数」には要介護度不詳を含む。  
2）熊本県を除いたものである。

介護時間が「ほとんど終日」の同居の主な介護者は、「男」が約3割、「女」が約7割となっている。  
続柄別にみると、女の「配偶者」が最も多く、次いで女の「子」、男の「配偶者」の順となっている。（図39）

図39 介護時間が「ほとんど終日」の同居の主な介護者の要介護者等との続柄別構成割合



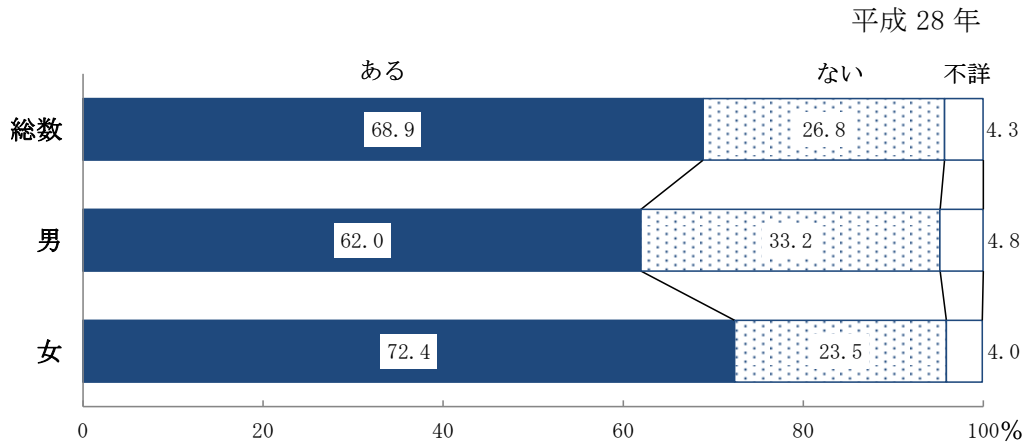
注：1）「その他の親族」には「父母」を含む。  
2）平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

#### 4 同居の主な介護者の悩みやストレスの状況

同居の主な介護者（熊本県を除く。）について、日常生活での悩みやストレスの有無をみると、「ある」68.9%、「ない」26.8%となっている。

性別にみると、「ある」は男62.0%、女72.4%で女が高くなっている。（図40）

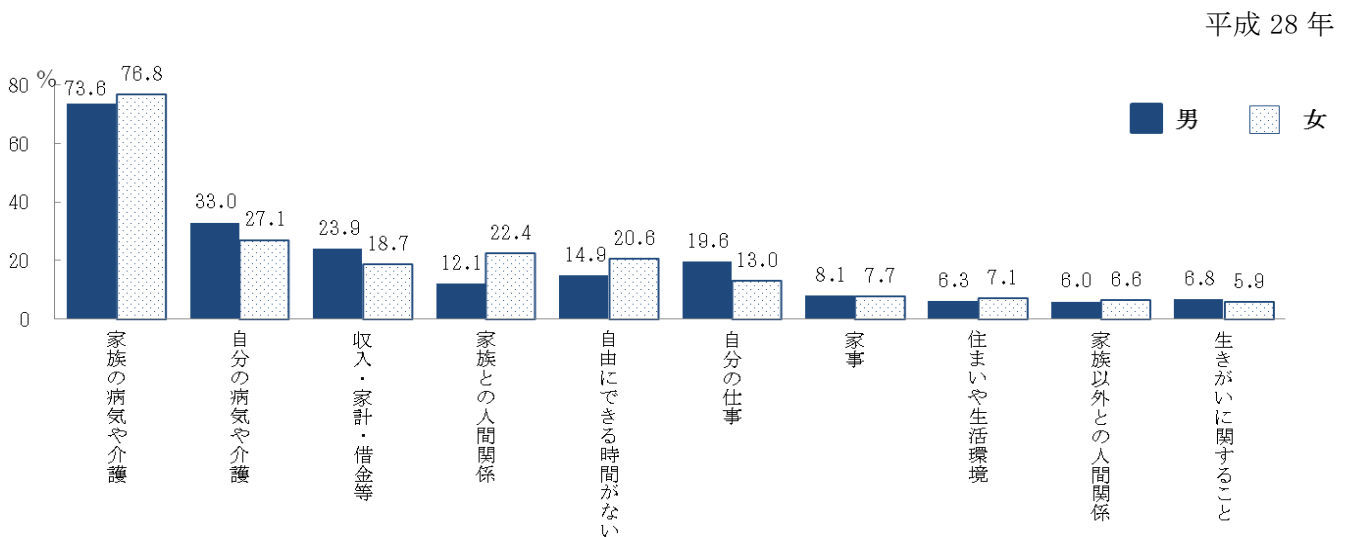
図40 性別にみた同居の主な介護者の悩みやストレスの有無の構成割合



注：熊本県を除いたものである。

日常生活での悩みやストレスが「ある」と回答した者の悩みやストレスの原因をみると、男女ともに「家族の病気や介護」が73.6%、76.8%と高く、次いで「自分の病気や介護」が33.0%、27.1%となっている（図41）。

図41 性別にみた同居の主な介護者の悩みやストレスの原因の割合（複数回答）



注：熊本県を除いたものである。